

出題分析			
試験時間 60 分	配点 100 点	大問数 4 題	
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
【概評】			
例年通り、全問マークセンス方式で、解答数は昨年と同様に 40 個である。大問数は 4 題で、自然環境から 1 題、系統地理から 2 題、地誌から 1 題出題されており、地理院地図、写真、地図、衛星画像、統計表、グラフなど資料は多様である。設問には、語句選択のほか、正誤の判定の組み合わせを問う問題や計算の必要な問題も見られる。また、配列を問う問題が出題されることもあり、一昨年は段丘面や年次の順序、本年は地図に示した線上のケッペンの気候区分の順序が問われた。地理的思考力により正答を導ける設問が多いが、一部に詳細な知識を問う設問も見られる。全体としてみれば、難易度は標準といえる。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[I]	自然環境と防災	問 2. (1) 北部の山間部にも多い②が洪水、海岸部の人工島にも分布する③が津波、都心部などに多い①が大規模な火事。 (2) 内陸県のうち(エ)滋賀県は整備対象外、(ウ)岐阜県は木曽三川により津波が遡上する可能性がある。問 3. (1) 台風に備えたコンクリート造り、傾斜の緩い屋根、水不足に備えた貯水タンクから沖縄県。(2) 研波平野では、冬の季節風は北西風ではなく南西風、春のフェーンは南風であり、屋敷林は西～南が厚い。問 4. (2) 被災前後の高い解像度の画像があれば、(ア)家屋の流出戸数、(イ)砂州の形状変化、(ウ)斜面崩壊の数、(エ)森林の破壊面積は推定できる。	やや難
[II]	世界および日本の貿易	(A) ②日本の貿易依存度は高くない。(B) ①スマートフォンや自動車は互いに輸出しあうので水平貿易。(E) ①GATT ではサービス貿易は扱われなかった。②WTO では緊急輸入制限が認められている。(F) ②RCEP15 カ国の大合計 GDP 合計は世界の約 3 割。(I) ①設問の 2017 年統計では輸出額の日本最大は名古屋港。ただし、2022 年統計では成田国際空港が最大、次いで名古屋港。②2017・2022 年統計とともに成田国際空港に次いで東京港が輸入額第 2 位。	標準

設問別講評			
[III]	観光産業	問 1. ドバイ空港は中東のハブ空港。問 2. A が北海道地方, B が東北地方, C が中国地方, D が沖縄地方。問 3. イの紀伊山地は、紀伊山地の霊場と参詣道として世界文化遺産に登録。問 5. (2) 日本人の訪問国・地域第 1 位は、設問の 2017 年にはアメリカ合衆国（ハワイ, グアム, 北マリアナ諸島を含む）であった。(4) 国際観光支出最大国は、設問の 2019 年には中国であった。	標準
[IV]	EU の成り立ちと発展	問 2. (ア) ドッジ・ラインは戦後日本の財政金融引き締め政策, (イ) ニューディール政策はアメリカ合衆国大統領フランクリン=ローズヴェルトによる世界恐慌克服のための政策, (エ) マンハッタン計画はアメリカ合衆国における第二次世界大戦中の原爆開発・製造計画。問 3. (ア) スイスは EU に加盟していない。問 4. (ア) バルト 3 国は, CIS ではなく EU に加盟。問 5. (ア) がスウェーデン, (イ) がフランス, (ウ) がポーランド, (エ) がイタリア, (オ) がドイツ, (カ) がオランダ。	やや易

合格のための学習法	
関西大学の入試地理の解答形式は、全問マークセンス方式となっている。高校地理で学習する単元から幅広く出題されていることから、教科書だけでなく、日頃から資料集や地図帳、統計表なども活用して学習することが求められる。	教科書については、本文の理解はもちろん、掲載されている図表や写真などについても目を通しておきたい。復習する際、単元で学んだ知識や考え方を、自分の言葉で説明してみたり、それまでに学んできた知識や考え方にも関連付けて考えたりすることにより、理解を深めていこう。また、教科書に掲載されている統計値は、必ず確認しておこう。さらに、知らない地名が出てきたら、その都度、地図帳で位置を確認することを習慣づけよう。問題演習の際には、選択肢中のそれぞれの要素ごとに正誤を判断することを積み重ねることにより、知識や考え方を確実に身につけてほしい。